

CA1
EA947
B71
#56 Sept. 1984
DOCS



1984年9月
No.56

ISSN 0389-1852

Dept. of External Affairs
Min. des Affaires extérieures
OTTAWA

NOV 18 1984

RETURN TO DEPARTMENTAL LIBRARY
RETOURNER À LA BIBLIOTHÈQUE DU MINISTÈRE

LIBRARY E A / BIBLIOTHÈQUE A E

3 5036 01030038 5

トピックス——2

カナダ、保守党政権に——4

マルルーニー首相の横顔——5

各界の反響——6

マルルーニー内閣が発足——6

進歩保守党の歩み——9

CANADA IN NEWS——8

オリンピックでメダル44個

テリドン近況——10

カナダの航空機産業——12

カナダ便り/新渡戸稲造に関心・ジョージ・オオシロ——14

カナダ史点描/ルイ・リエルの反乱——15

カナダ人物記⑩リオナ・ボイド——16

編集後記——16

60984 81800

Bulletin Canada

発行  カナダ大使館



◆GMが十億ドルを投資 自動車工場の拡充工事に

カナダ最大の自動車メーカー、GM(ゼネラル・モーターズ)カナダ社は、七月はじめ、オンタリオ州オシヤにある工場の拡充工事に十億ドルを投資すると発表した。同社はその前に、セント・キヤリオンに新エンジン工場の建設を決定しており、今回の決定と合わせて、オンタリオ州における新たな投資額は約十二億六千万ドルに達する。

オシヤワでの投資の内訳は、トラック工場の拡充近代化に五億五千万ドル、車体ハネルなどを生産する超近代的な大型プレス工場の建設に二億二千八百万ドル、発電所の拡充、第二車体組立工場、新塗装工場の建設などに二億二千二百万ドル、となっている。

この大規模投資により、カナダの自動車産業の国際競争力が高まり、自動車関連業界での雇用が大幅に増えるだけでなく、国内製鉄業界にも大きな需要をもたらすことになる。

なお、カナダでは最近、このGM社のセント・キヤリオンおよびオシヤワでの投資のほか、本田技研の組立工場建設(投資額一億下

◆麻薬探知犬が活躍 昨年は三千万ドル分も発見

一九八一年度、三百八十三件、一千万ドル以上。
一九八二年度、三百三件、千五百万ドル。
一九八三年度、二百四十五件、三千万ドル。

いずれも、カナダ税関の麻薬探知犬特別班が挙げたハロインやリファンなどの麻薬事件の数と、その未端価格である。

摘発件数は減っているが、押収



空港で荷物を点検する探知犬。

された麻薬の量は大幅に増えていることが分かる。特に八三年は、一度に二千万ドル相当の麻薬がバシクバーで見つかったため、金額が大きくなった。

麻薬探知犬特別班の犬は、いずれもカナダで訓練を受けたもので、その臭覚によつて、国境を渡る車のトランクや、飛行機や船、あるいは倉庫の中に隠された麻薬を発見するのが任務である。ときには銃器や爆薬の発見を探知することもある。右の数字は、特別班の成績がかなり良いことを示している。

・スチュワード氏とテリィ・テイゲン氏によると、どんな犬でも訓練は可能だが、最も適しているのはラック・ラホランドル。シエハートと比べて小さくて軽いので、トレーナーなどに運び入れるのが容易だし、性質が温かなので扱いやすいからだ。

◆「トリビアルゲーム カナダや米国で大人気

カナダをはじめ、米国やヨーロッパで大人気を呼んでいるゲームがある。ゲームの名は「トリビアル・パシユール」。直訳すれば、「つまらない追求(または楽しみ、とこの意味である。

ゲームのやり方は簡単に、サイコロをころかして、地理、娯楽、歴史、芸術・文学、科学・自然、スポーツ・レジャーの六項目のうちひとつを選ぶ。各項目ごとに、

カードに書いた千項目の問題があつて、それに答えながらゲーム盤の上で駒を進めていくというもの。「つまらない追求(楽しみ)」といふのは、設問が瑣末なところからきている。

例えば「ペーカト通り二二B号に住んでいたのは誰?」「地球上で人間に次いで頭のいい生物は



トリビアル・ゲーム

「ヘリアルースは一九二七年に六十本のホームラン記録をつくつたが、それまでの記録保持者は誰?」(答へ順に、シヤロツク・ホームス、イルカ、ペーカトルス本人)。

「トリビアル・パシユール」を開発したのは、モントルオール・ガセット紙の写真部長クリス・ヘイニートカナダ通信社(CP)のスポーツ記者スコット・アボット。二人で考え出してつくつたこのゲームを、八一年の秋に試しに千二百セットを店頭に並べてみたところ、たちまち売り切れた。八二年の夏になると、トロントで「トリビアル・パシユール」ゲームが起り、八三年のクリスマスには米国でも引けつぱらだ。現在はヨ

ヨーロッパでも人気を呼んでおり、ヘイニート氏によると今年の総売り上げは十億ドルに達するだろうといふ。

◆各州とも緩慢な景気回復 経済機関が来年の予測

カナダの有力な経済調査機関「コリアレンス・ボート・オブ・カナダ」が八月に発表した予測によると、カナダの景気は来年もあまり芳しくなさそうだ。

アルバータとブリティッシュ・コロンビアの両州は、今年より若干景気はよくなるものの、経済成長率は前年比でわずか一パーセントとどまり。オンタリオ州は自動車販売の伸びで不況から脱したものの、来年は新車の売れゆきが頭打ちとなり、マイナス一パーセントの成長率か予想される。ケベックでは林産、鉱業、製鉄業が国内および国際需要の低下で振るわず、またニューファンドランドでも同様の理由で景気がやや落ち込む。

消費の回復で現在一ないし三パーセントの成長をみているノバスコシア、ニュー・ブランズウィック、アトラス・エドワード・アイランドでは、金利の上昇や所得の伸び悩みで景気は横ばいしよう。ロイドミンスターで重質油プロシエクトが始まるサスカチュワン州では一・六パーセントの成長が見込まれているが、今年第二位の成長率(三・九パーセント)を示しているアトハは、鉱業と製造

業の不振で〇・五バーセント前後に落ちる予想だという。

◆フランス語のみの教育は違憲 最高裁、ケベック言語法で判決

カナダ最高裁判所は、このほど、フランス語を州の公用語と定めたケベック州言語憲章の一部について、憲法違反の判定を下した。

言語憲章では、少なくとも母親の一人がケベック州で英語教育を受けている場合を除いて、州内のすべての子供はフランス語のみの教育を受ける、と定めているが、最高裁判所は「一九八二年憲法」の「権利と自由の章典」第二十三条により、カナダのすべての子供は英語またはフランス語で教育を受けた親と同じ言語で教育を受ける権利を保障されているとして、州法の条文を違憲としたもの。

◆北極の石油と天然ガス 生産・輸送に見通し



カナダ北極のボーフォート海には、採掘可能な原油が十三億立方メートル、天然ガスが一兆八千六百万立方メートルも埋蔵されていると推測されている。そのうち確認されているのは、採掘可能な原油が一億二千万立方メートル、天然ガス

が二千九百万立方メートルであるが、その原油が早ければ一九八八年にも、現在建設中のパイプラインで南の市場へ送られる可能性が出てきた。

これは、このほど連邦政府の審議会がまとめた環境調査報告書で明らかにされたもので、同報告書は環境上および社会・経済的にみて小規模の石油生産および輸送に問題がないこと、強力な砕氷タンカーの開発が望まれることを指摘している。

国有のベトロ・カナダを中心とするコンソシアム、パンアークティック石油会社では六百万ドルをかけて、北極の油井から十万バレルの原油を南に輸送する実験を行なう計画を進めているという。

◆アジア財団設立へ 連邦議会が立法化

カナダ連邦議会は六月末、カナダとアジア、特に日本、中国、韓国など環太平洋諸国との関係増進を目的にしたアジア・太平洋財団を設立する法案を採択した。

同財団は、連邦政府、各州政府、経済界が共同出資して運営することになっており、理事長と理事九人は連邦政府が、残り二十人の理事は最初の十人の理事が任命する。財団は、①アジア・太平洋地域とカナダの文化、歴史、宗教、考え方、生活様態などについての相互理解を図る②同地域とカナダのさまざまな組織や機関の間の開発

協力を支援する③同地域とカナダの民間および公部門の組織や機関の間の協力を推進する④同地域とカナダの間の経済・通商関係を増進する⑤カナダとアジア・太平洋でそれぞれ地域の経済、文化、社会などに関する学術研究を推進する⑥カナダとアジア・太平洋地域に関する情報を収集し、双方で配布する——ことになっている。

なお、連邦政府が最初の五年間に五百万ドル拠出することになっているほか、ブリティッシュ・コロンビア州が二十万ドル提供している。

◆ローマ法王がカナダ訪問

ローマ法王ヨハネ・パウロ二世が、九月九日から十二日間、カナダを訪問した。ローマ法王の訪加は



これが初めて。写真は、法王の訪問を記念して発売されたメダル。

◆「テリー・フォックス物語」 十月上旬から日本で上映

義足でカナダ大陸を走破しようとしたテリー・フォックスの「希望のマラソン」をテーマにした映画が、今秋日本で公開された。「テリー・フォックス物語」でテリーを演ずるのは、自らも片足の切断手術を受けた無名の青年エリック・フライアー。カナダのロバート・クーバー・プロの作品で、

一九八四年度カナダ・アカデミー賞の最優秀作品賞、最優秀主演男優賞、最優秀助演女優賞（ジャッキー・バロウ）など四部門を独占している。

◆車椅子利用者用のミニバス 乗り降りに便利で広い車内

身体の不自由な人が無理なく乗れるミニバスが、カナダで開発された。オリオンIIと呼ばれるこのバスは、オンタリオ・バス工業社（オンタリオ州ミシソガ）が考案したもので、従来の改造したバンやバスよりはるかに便利になっている。第一は、骨組を橋のような構造にして、支柱を床下から天井に移動したため、シャフトなどの場所をとる必要がなくなり、床をかな



車椅子が歩道から簡単にバスに乗り込める。

り低くてきたこと。客を乗り降りさせるときは、車体下ががり、サイドドアは歩道の縁から五センチ手ほどになる。乗降口は、路面とほとんど同じ位置にくる。

また前輪駆動式なので、床下の駆動軸や後部車軸が不要となり、それだけ車内が広く取れる。中型車（長さ七・五メートル）だと、二

十六の座席、二十の補助席、または他の乗客を移動させなくても自由に乗り降りできる車椅子が七つ入る、という。

大使館人事

今年、カナダ大使館の陣容が次のように変わった。（かつこ内は前任者）。

- 政治担当参事官 マイケル・テンブル（ゴードン・ロングミュア）
- 経済担当参事官 テリー・コリンズ（ウイリアムズ）
- 商務担当参事官 ロバート・マーナー（ロバート・フェアウエザ）
- 農務担当参事官 ゴードン・パーソンズ（アブ・バリー）
- 観光担当参事官 ジョン・バーチエル（ドン・マルサン）
- 石油・石油化学担当二等書記官 スティブン・ブリアトン（ロバート・ブロッケルバンク）
- 海洋機器・輸送機器担当一等書記官 ロバート・メイン（アーニー・ラジネック）
- 関税局 アーサー・アトウッド（ジョン・バローズ）
- 政治分析・学術交流担当 竹本徹（渡辺高雄）
- 一般消費財担当 大山博保（大橋康一郎）

●案内

日本経済新聞社とグループ・アード・メール社の主催による日加経済シンポジウムが、十一月六日、ホテルオークラで開催される。

マルルーニー首相の横顔

ブライアン・マルルーニー氏は、1939年3月20日、ケベック州ベイ・コモで6人兄弟の1人として生まれた。アイルランド系移民の息子で、英仏両語を流暢に話す。ノバスコシア州の聖フランシス・ザビエル大学から政治学の学士号、ケベック州ラバル大学から法学士号を得て卒業。学資は、日雇いやトラック運転手をして稼いだという。

ラバル大学を卒業すると同時に、モンリオールの法律事務所に加わり、労働争議の弁護士として名を馳せた。1974年には、ケベックの建設業界における暴力を調査する連邦政府の特別委員会のメンバーに任命されている。

1974年、35歳の若さで、アイアン・オア・カンパニー・オブ・カナダ(鉄鉱石の会社)に副社長として迎えられ、翌年社長に選任される。昨年6月、保守党党首に選ばれるまで、同社の会長および鉄道会社など関連子会社の社長の座にあった。

政治には、すでに大学時代から強い関心を示し、1976年の進歩保守党党首選出大会では、党首に立候補している(そのときはジョーク・クラーク氏が選出された)。しかし議員歴はなく、党首に選ばれたあと、ノバスコシアの選挙区から立候補して初めて下院議員への当選を果たした。その後は、トルドー首相を相手に野党党首としての手腕を発揮してきた。

今回の選挙では、ケベック州の選挙区から立候補して当選している。趣味はテニス、水泳、釣り、スケート。大の野球ファンでもある。ユーゴスラビア出身のミラ夫人との間に、3人の子供がいる。



カナダ、保守党政権に 経済再活性化が最大目標

「わたしが(進歩保守党の)党首に選ばれたのは、ある意味では、(ケベック州における)自由党の独占を打ち破るためである。わたしはどうしても勝つてやる」

選挙運動でこう予言した若千四十五歳のブライアン・マルルーニー氏の率いる進歩保守党が、二百八十二議席のうち二百十一議席を制するという、カナダの政治史上最大の勝利を収めて、新たに政権の座についた。戦後では、ディフェンペーカールおよびクラーク政権に次ぐ三度目の保守党内閣の誕生である。

カナダは今、ケベック問題や憲法のカナダ移管に力を入れたトルドー首相の「政治の時代」から、失業や財政赤字の解消を最大課題とする「経済の時代」に突入したことになる。

六月三十日にトルドー首相からバトンタッチされたばかりのターナー氏は、わずか二か月余りの天下に終わったわけである。しかも、議席は解散前の百三十九から、たった四十に転落した。同党にとって最低記録である。ターナー氏は、ブリティッ

シュ・コロンビア州の選挙区からかろうじて当選したものの、リーガン、フォックス、ロバーツ、ラムリー、エローラなど、多くの現職閣僚が落選している。

進歩保守党は、これまで自由党の牙城とされていたケベック州で七十五議席のうち五十八議席(残り十七議席は自由党)最大票田のオンタリオ州で九十五議席のうち六十七議席、自由党十四、新民主党十三、無所属一)を獲得したほか、ブリティッシュ・コロンビア州で二十八議席のうち十九議席、アルバータ州で全二十一議席、サスカチュワン州で十四議席のうち九議席、マニトバ州で十四議席のうち九議席と、伝統的に強い西部カナダでも圧倒的な強さを見せた。また東部でも、ニュー・ブランズウィック州(定数十)とノバスコシア州(同十一)の九議席をトップに、プリンス・エドワード・アイランド州(四)で三議席、ニューファンドランド州(七)で四議席、そしてユークン、ノースウエストの二準州(合計三)で三議席と、すべての州および準州で、過半数を制した。

事前の予想では、自由党と保守党の接戦、新民主党の大敗、というのが大方の線だった。しかし、自由党の人氣がトルドー辞任から党首選まで高まった一時的なものだったことが除々に判明、選挙直前の世論調査では、党首選前の支持率(三〇―三五パーセント)に戻った。

自由党の敗因としては、トルドー内閣が辞任直前に閣僚十七人を上院や外交官ポストなどに内定、それをターナー首相

官問題についてはテレビ討論で終始ターナー氏を優勢に立たせた。

マルルーニー氏がケベック出身で、しかもターナー氏のフランス仕込みのフランス語と違って、地元フランス語で語りかけたのは、ケベック州での大量議席獲得につながった。さらに、これまで、右寄り「のイメージが強かった進歩保守党が、中道、政党としての政策をかけたのも、幅広い支持を得る要因となった。

勝利声明の中で、マルルーニー氏は、「国民の要求は明瞭である。その声は、長年にわたって無視されてきた西部カナダから、そして長い間誤解されてきたケベックから、同じ力強さと雄弁さで、聞こえてくる。それはまた、大西洋沿岸諸州の経済的期待の合図であり、またオンタリオのあの強大な産業基盤の再活性化の声である」

と述べているが、これで、ケベック、オンタリオという二大州の有権者の支持に頼り、西部カナダではほとんど支持のなかったトルドー時代とは打って変わって、真に全国を代表する政権が生まれたことになる。

マルルーニー氏は、同じ声明で、「われわれの目標と使命は、雇用を創出し、カナダ経済を再び前進させることにある。これは、わが国の若者および高齢者に対するわれわれの義務である。新政権は、外国投資、国内投資にとって魅力的な経済環境をつくることを最優先事項とする。資本にとって信頼できる新しい時代、国民が雇用創出および経済成長の恩恵を受

連邦下院の新しい勢力分野(カッコ内は選挙前)

州	保守党	自由党	新民主党	無所属	空席	合計
ブリティッシュ・コロンビア	19(17)	1(0)	8(11)	0(1)	—	28
アルバータ	21(19)	—	—	—	(1)	21
マニトバ	9(5)	1(2)	4(7)	—	—	14
サスカチュワン	9(7)	—	5(7)	—	—	14
オンタリオ	67(36)	14(49)	13(6)	1(0)	(4)	95
ケベック	58(1)	17(70)	—	—	(4)	75
ニュー・ブランズウィック	9(3)	1(6)	—	—	(1)	10
ノバスコシア	9(6)	2(4)	—	—	(1)	11
プリンス・エドワード・アイランド	3(2)	1(2)	—	—	—	4
ニューファンドランド	4(2)	3(5)	—	—	—	7
ユーコン準州	1(1)	—	—	—	—	1
北西準州	2(1)	0(1)	—	—	—	2
合計	211(100)	40(139)	30(31)	1(1)	0(11)	282

が選挙後に実施すると約束したこと、ターナー内閣がトルドー内閣の陣容をほとんどそのまま引き継いだこと、ターナー首相が自らのイメージを確立する前に選挙を急ぎすぎたこと——などが考えられる。

一方のマルルーニー氏は、ほとんど完ぺきに近い選挙運動を繰り広げた。一年がかりで作り上げた党内の選挙組織を駆使し、変革を中心テーマに据え、また任

ける時代を、確立するつもりである」として、経済の活性化とそれによる雇用の増大に最大の努力を傾ける姿勢を示した。マルルーニー氏は、自由党政権下における外資規制やエネルギー部門のカナダ化を推進しようという国家エネルギー政策を批判、今後は失業解消のために、これらの政策を大幅に緩和する、と語っている。

外交政策では対米協調を重視するとしており、特に経済面での関係改善が期待される。マルルーニー氏はまた、選挙運動で、防衛力増強の必要性についても述べているが、カナダが今後とも国際平和のために努力することも約束している。



支持者の歓声に応えるマルルーニー氏とミラ夫人。

対日関係については特に触れていないが、マルルーニー氏の首席政策顧問チャールズ・マクミラン氏(ヨーク大学教授)が「日本の産業システム」という本の著者で日本経済に詳しく、日本人と結婚して日本語も話すという日本専門家であること、ブリティッシュ・コロンビア州、アルバータ州など西部カナダが進歩保守

党の伝統的な地盤であり、今度の選挙でも日本と強い経済関係をもっているこの地域から数多くの保守党議員が選出されていること、また日本がカナダ第二の貿易相手国で、技術提携などの産業協力がますます重要となっていること——などから、対日関係を重視する政策は今後も変わらないものと見られる。

国内的には、失業や財政赤字などの経

各界の反響

●圧倒的な勝利を得たマルルーニー氏と進歩保守党に祝意を表す。電話でマルルーニー氏に申し上げたように、政権の潤滑な委譲については、最大限の協力をするつもりだ。カナダの全国民はその意思を表明した。そして国民はいつも正しい。われわれはがっかりしたが、希望は失っていない。これから力を再結集して、次の選挙で再起するよう最善の努力をするつもりだ。

(ジョン・ターナー自由党党首)

●国民は変化を選んだ。マルルーニー氏を祝福すると同時に、新民主党は公正な課税、女性の平等、雇用の創設など、全国一般庶民のために、前面に立って運動してきたことを申し上げたい。新政権に對しても、こうした庶民の関心事に對する行動を迫るつもりだ。

(エド・ブロードベント新民主党党首)

●マルルーニー氏は、今後ともすべての利益グループの声を傾け、これまで

済問題に取り組むほか、女性の権利の拡大、英仏両民族を中心とする二言語・多文化政策の維持を約束している。

マルルーニー氏はまた、一九八〇年のケベック州民投票では、分離独立反対の側に立って運動し、またマニトバ州での言語論争では少数派のフランス系住民の立場を支持してきた。

対処されたことのない諸問題についてじっくり論議して欲しい。

(カナダ自営業連盟のジョン・ブロック会長)

●マルルーニー氏は争いを求めていないと思う。協調を求めることによって、万事都合よくいくはずだ。

(カナダ労働会議のマクダモット議長)

●選挙結果は、国益によく適うものと思われる——少くとも短期的には。習慣的に自由党を支持しないカナダ社会の一角が、ようやく政権の座を得た。これで、一九六八年以来、始めて本当の意味での全国的な政権が生まれたことになる。

(グループ・アンド・メール紙)

●新政権は、その正当性についていかなる政党、労働組合、経済圧力団体、州政府といえども疑問をはさめないほど、国民の強い信任を得た。しかしこのような高い信頼は、(権力の)乱用につながりかねない……。選挙結果は、指導者がケベック出身だという意味で歴史的に新しい意義をもっている。

(ル・ドゥボワ紙)

マルルーニー内閣が発足

進歩保守党のマルルーニー内閣が九月十七日に発足した。

新内閣の陣容は四十人で、その顔ぶれはカナダ全国にまたがっている。

外相には、元首相のジョー・クラーク氏(アルバータ州選出、四十五歳)、蔵相には投資会社ドミニオン・セキユリテイズの前社長で、クラーク政権のもとで国際貿易担当国務大臣をつとめたマイケル・ウイルソン氏(オンタリオ州選出、四十六歳)、国際貿易大臣には弁護士ジェームズ・ケレハー氏(オンタリオ州選出、五十三歳)、対外関係大臣には相互銀行連合会理事のモニク・ベジナ女史(ケベック州選出、四十八歳)が任命された。

副首相兼枢密院議長のエリック・ニールセン氏はユーコン準州選出の下院議員で元公共事業大臣。法務大臣のジョン・クロスビー氏はニューファンドランド州選出で、州内閣で大蔵大臣兼予算局長官などを歴任したあと、連邦下院に転出、クラーク政権のもとで大蔵大臣をつとめた(五十三歳)。

マルルーニー内閣の顔ぶれ

●首相 マーチン・ブライアン・マルルーニー ●副首相兼枢密院議長 エリック・ニールセン ●外務大臣 ジョー・クラーク ●大蔵大臣 マイケル・ウイルソン ●法務大臣



クラーク外相

兼検事総長 ジョン・クロスビー ●国際貿易大臣 ジェームズ・ケレハー ●対外関係大臣 モニク・ベジナ ●地域産業振興大臣 シンクレア・ステイブンズ ●エネルギー大臣 ●資源大臣 パトリック・カーニー ●農務大臣 ジョン・ワイズ ●漁業・海洋大臣 ジョン・フレージャー ●運輸大臣 トム・マザンカウスキー ●国防大臣 ロバート・コーツ ●科学技術大臣 トーマス・シドン ●通信大臣 マルセル・マツス ●厚生大臣 ジェイコブ・エップ ●労働大臣 ウィリアム・マクナイト ●雇用・移民大臣 フローラ・マクドナルド ●公共事業大臣 ロック・ラサール ●環境大臣 スザンヌ・ブレルグレン ●消費者・企業大臣 ミシェル・コテ ●国税大臣 ベリン・ビティ ●予算局長官 ロバート・ドゥコト ●インディアン・北方開発大臣 デビッド・クロンビー ●供給・サービス大臣 ハービー・アンドンレ ●警務長官 エルマー・マケイ ●国務長官 W・F・マクレーン ●復員軍人大臣 ジョージ・ヒース ●国務大臣 ●観光担当 トーマス・マクミラン ●中小企業担当 アンドレ・ピソネット ●運輸担当 ベノア・ブシャール ●青少年担当 アンドレ・シヤンパンヌ ●スポーツ担当 オットー・ジエリネツク ●多文化政策担当 ジャック・マータ ●財政担当 パーバラ・ジャン・マクドゥーガル ●鉱山担当 ロバート・レイトン ●林産担当 ジェラルド・メリシュー ●カナダ小麦局担当 チャールズ・メイヤー ●与党上院院内総務 ダフ・ロプリン ●与党下院院内総務 ラモン・ナティッシン

自由党と並ぶカナダの二大政党のひとつである進歩保守党（プログレッシブ・コンサーバティブ・パーティ）は、一八五四年に組織された自由保守党にさかのぼる。現存するカナダの政党の中では、最も歴史が古い。

同党は、のちに初代カナダ首相となるジョン・A・マクドナルドが、カナダ連邦の結成、国有鉄道の敷設などを目的に、東部の商人階級、保守的なフランス系住民、そしてオンタリオ・トリー党などを連合してつくった全国的なグループであった。英国との伝統的な関係を維持し、保護関税政策によって国内の商

工業を振興する——それが基本政策である。

進歩保守党の歩み

マクドナルドのもとにカナダの国家建設を果たし、大陸横断鉄道を敷き、産業基盤をつくった保守党は、短期間を除いて、一八九六年まで政権を握っていた。

しかし、その後はあまり振るわず、今日までの八十八年間のうち、保守党が政権をとったのはわずか二十年間。とくに第二次大戦後は、デューフェンベーカー首相（一九五七年六月—六三年四月）、クラーク首相（七九年五月—八〇年二月）の、合計六年七か月に過ぎない。

これまで保守党（一九四二年に現在

の進歩保守党と改名されたが、単に保守党という場合も多い）が政権に縁遠かったのは、いくつかの原因があるといわれている。もともとフランス系カナダ人は英国寄りの同党にあまり好意的でなかったが、フランス系カナダ人とインディアンとの混血であるメティスが反乱を起こしたとき、フランス系住民の懇請にもかかわらずそのリーダー、ルイ・リエルをマクドナルド政権が処刑したのがひとつ。さらに、第一次大戦のとき、嫌がるフランス系カナダ人を徴兵したことで、ケベックにおける保守党の人気は急落した。その上、保

守党時代に大不況に見舞われるという不運が重なり、以来自由党優勢の時代が続くことになる。

保守党にとって致命的だったのは、ケベック州で支持がなかったことである。デューフェンベーカー党首のとき五十議席を制した、という例外はあるが、七九年には七十五議席のうち二議席、八〇年には一議席しか確保できなかった。ケベック州は全議席のおよそ三〇パーセントを占めるだけに、同州での人気はこれだけ低ければ、他の州でいくら努力しても、選挙で勝利を収めるのはきわめて難しい。今回の選挙で大勝利を収めたのも、ケベックで五十八議席をとるといふ番狂わせが一因となった。

保守党は、伝統的に自由党と比べて右寄りで経済界に近いとされ、これも不人気の原因であったが、両党の間に基本的な政策の違いはない。

前回のクラーク保守党政権は、国有石油会社ペトロ・カナダの民営化、ガスリン価格の引上げといった思い切った政策をとった。しかし今度の選挙では、進歩保守党は意識的に「右寄り」のイメージを打ち消す政策をとった。

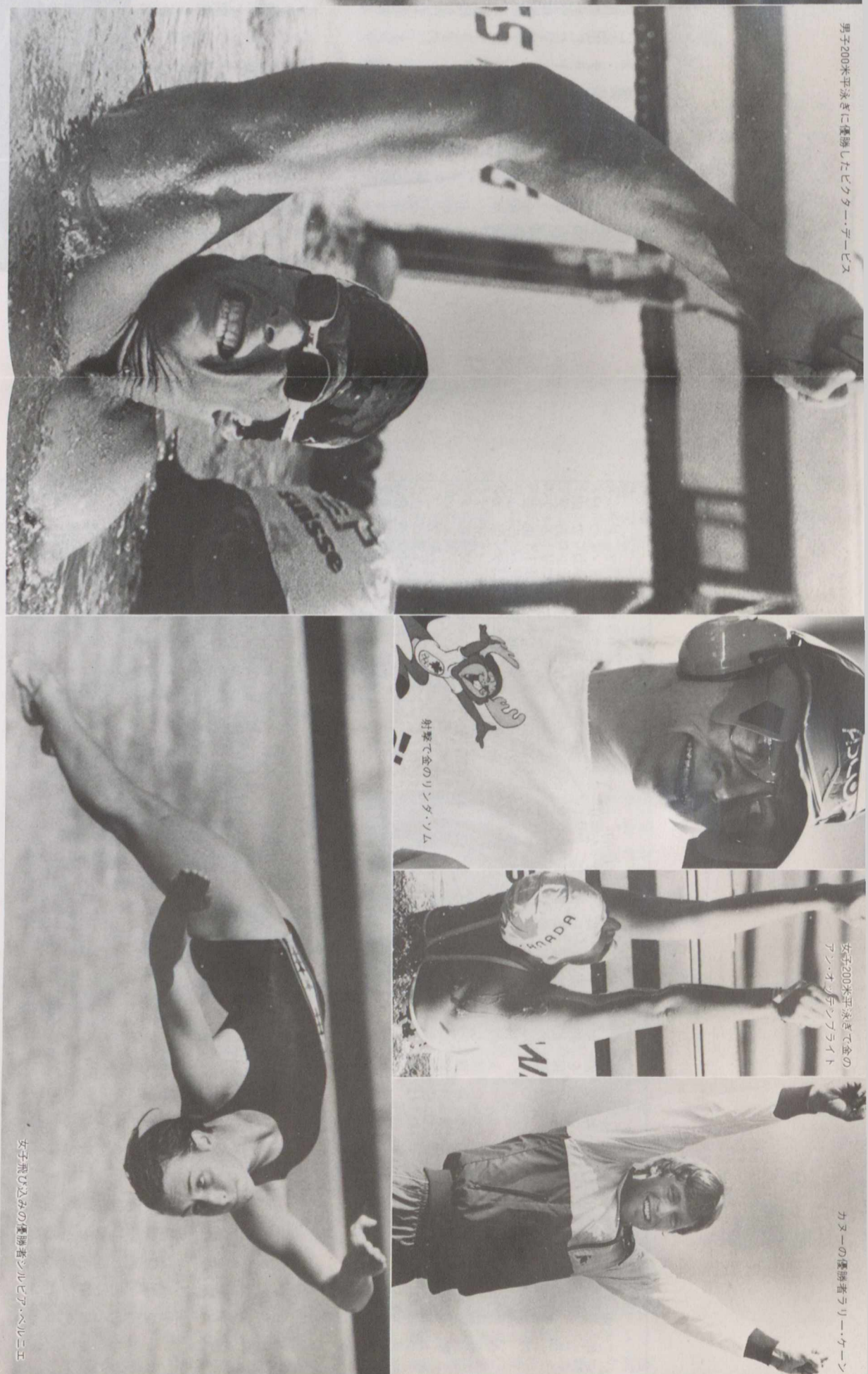
例えば、マニトバ州におけるフランス語使用の無条件支持、国庫補助医療制度の後退を阻止するための自由党法案の支持、社会主義政党である新民主党が押ししてきた金持ちに対する最少限課税、などがそれである。

しかし、雇用創出、経済の再活性化、女性差別反対などについては、両党の間にそれほど違いはない。ただ、対外政策では、保守党は防衛予算の増大を主張し、また、外国投資規制の緩和、対米関係の緊密化を訴えた。

なお、進歩保守党は、オンタリオ州、アルバータ州、サスカチュワン州、ニュー・ブランズウィック州、ニューファンドランド州、ノバ・スコシア州、プリンス・エドワード・アイランド州でも政権の座についている。十州のうち、同党が政権を握っていないのは、ブリティッシュ・コロンビア（社会信用党）、マニトバ（新民主党）、ケベック（ケベック党）の三州だけである。

カナダの歴代首相と所属党

1. ジョン・A・マクドナルド	保守党	1867. 7. 1—1873. 11. 5
2. アレクサンダー・マッケンジー	自由党	1877. 11. 7—1878. 10. 16
3. ジョン・A・マクドナルド	保守党	1878. 10. 17—1891. 6. 6
4. ジョン・アボット	保守党	1891. 6. 16—1892. 11. 24
5. ジョン・トンプソン	保守党	1892. 12. 5—1894. 12. 12
6. マッケンジー・ボウエル	保守党	1894. 12. 21—1896. 4. 27
7. チャールズ・タッパー	保守党	1896. 5. 1—1896. 7. 8
8. ウィルフレッド・ローリエ	自由党	1896. 7. 11—1911. 10. 6
9. ロバート・ボーデン	保守党	1911. 10. 10—1917. 1. 12
10. ロバート・ボーデン	保守党	1917. 10. 12—1920. 7. 10
11. アーサー・ミーエン	保守党	1920. 7. 10—1921. 12. 29
12. W・L・マッケンジー・キング	自由党	1921. 12. 29—1926. 6. 28
13. アーサー・ミーエン	保守党	1926. 6. 29—1926. 9. 25
14. マッケンジー・キング	自由党	1926. 9. 25—1930. 8. 6
15. R・B・ベネット	保守党	1930. 8. 7—1935. 10. 23
16. マッケンジー・キング	自由党	1935. 10. 23—1948. 11. 15
17. ルイ・サンローラン	自由党	1948. 11. 15—1957. 6. 21
18. ジョン・ディフェンベーカー	保守党	1957. 6. 21—1963. 4. 22
19. レスター・B・ピアソン	自由党	1963. 4. 22—1968. 4. 20
20. ピエール・エリオット・トルドー	自由党	1968. 4. 20—1979. 5. 22
21. ジョー・クラーク	保守党	1979. 5. 22—1980. 2. 18
22. ピエール・エリオット・トルドー	自由党	1980. 2. 18—1984. 6. 30
23. ジョン・ターナー	自由党	1984. 6. 30—1984. 9. 17
24. ブライアン・マルルーニー	保守党	1984. 9. 17—



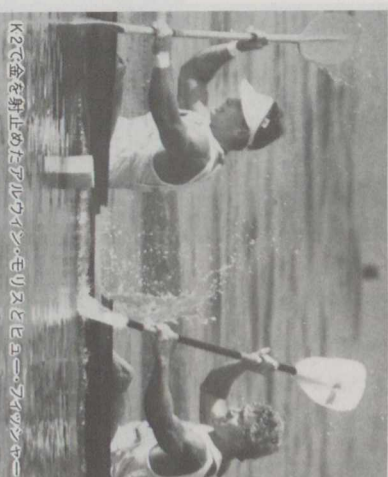
男子200米平泳ぎに優勝したビクター・デービス

女子200米平泳ぎで金のアン・オリヴァン・ライイト

カヌーの優勝者ラリー・カーン



金メダル2つのアレイクサン・ボーン



K2で金を射止めたアルカイエン・モリス及びヒュー・ワイルダーク



エイトの金メダル・チーム

新体操の金メダリスト ローリ・ワアン

オリピックでメダル4個 大活躍のカナダ・チーム

ロサンゼルス・オリンピックで、カナダ選手が「歴史的な」活躍を見せた。

金メダル10個、銀18個、銅16個、合計四十四個を獲得して、参加百四十か国中、第四位。メダル数は、一九三三年のカナダ最高記録十五個を一挙に跳び越え、一九七六年まで得たメダルの総計よりも多く、カナダ国民は自国選手の「意外」な強さに目を見張る毎日だった。

大会第一日、まず射撃でオタワのリンダ・ソムが、アメリカのルビー・フォックスを破って最初の金に輝いた。女子射撃がオリンピック種目になったのは今回が初めてだから、リンダ・ソムは世界最初の女性射撃金メダリストになる。

これを皮切りに、カナダのメダル数はぐんぐん増え、最終日の前日には一挙に十一個を獲得した。カナダ人選手が入賞した。四百のタイム四分十七秒四一は世界記録をいくつか持つアレックス・ホーアングが、予想通り四百米メドレーと二百米メドレーでそれぞれ金メダルをとった。四百のタイム四分十七秒四一は世界

陸上競技では、五個のメダルをとった。まずベン・ジョンソンが百米走で銅をとった。続いて女子三千米走でリン・ウイリアムスが銅、バルバドス島出身のプリティ・アムスが銀、加、結果カナダは、今年四月の日、米、加、チエコの四か国対抗で優勝、七月のNHK杯でも日本を破った。ロス五輪でカナダは結局四位にとどまったが、その強さはかつてのカナダ・チームを知る人々を驚かせた。

カナダは女性もカヌーに強かった。アレックス・ワイルドとスー・ホロウェイのチームが五百米K2で銀をとっている。ヨットのフライイング・タツチン級でテリ・アクトリンとエバート・バスケットのチームが銀。ただ、世界のヨットマンからソリングの神様と慕われている今年四十六歳のハンズ・フォオが銅にとどまったことは、残念だった。フォオは六〇年、六四年、七六年に次いで、今回で四度目のオリンピック出場である。

カナダの柔道は、二十年間の挑戦で初めて銅を手にした。ウイニペグのマーク・パーシヤートが九十五キロ以上級で三位で表彰台に立った。レスリングはヘビィ級でボブ・モルが銀、フリースタイルと八十二キロ級でクリス・リングが銅を二個とった。

ボクシングでは、カナダ・アマチュア・ボクシング界の王といわれるウイリントン・デヴィットが、ヘビィ級で銀をとった。

格闘技

陸上

テリドン近況

ソフト開発でさらに応用広がる

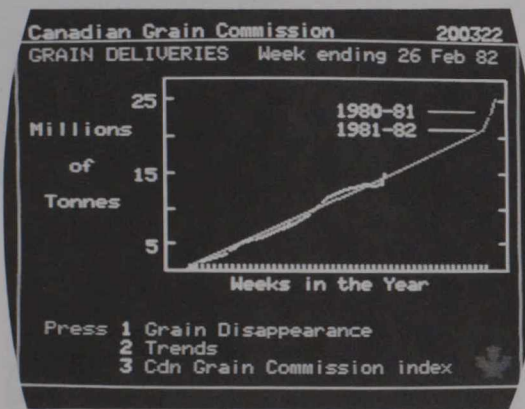
カナダ通信省が開発し、日本でも各地で利用されるようになった双方向文字図形情報システム(ビデオテックス)、テリドンは、端末機からデータベースを呼び出し、ショッピング、観光、催事、気象、スポーツといった自分の欲しい情報を文字や図形でテレビ画面に写し出すニューメディアである。情報検索だけでなく、ホームバンキングやホームショッピング、電子メールもできるし、双方向性を生かしてテレビ会議にも使えるという、きわめて応用範囲の広いシステムだ。

すでに本紙で紹介したように、カナダでは現在、たぐさんの実用テリドン・サービスが稼動している。農家を対象にしたマニトバ州の「グラスルーツ」やトロントのタウンガイド「テレガイド」は、その代表的な例だ。そのほかにも教育分野に応用したTVオンタリオの「オンタリオ・テリドン・ネットワーク」(進路指導など)、ベル・カナダが中心となって運用しているカナダ最大の一般向け実験サービス「ビスタ」(各種案内、ニュース、ゲーム、ホームショッピング)、株式情報を扱う全国ネットの「マーケットファックス」などが比較的よく利用されている。

カナダ通信省は一九八二年、アメリカの電話会社AT&Tなどと共同で技術水準を作成した。これがNAPLPSと呼ばれるもので、何回かの修正をへて、最近カナダ標準局(CSA)と米国標準局(ANSI)が公式にビデオテックスとテレテキストの北米標準と認定した。NAPLPSとなったことで、テリドンはアメリカでも利用が広がっている。

カナダでの最近の動向としては、パソコンとのドッキングがあげられる。テリドン端末(送受信・表示)や画像作成を、特別な装置でなく手持ちのパソコンでや

ってしまおうというのである。カナダのテリドン各社は、そのためのソフトウェアを競って開発してきた。パソコン利用が進めば、テリドン・サービスの利用者も提供者も、安価に手軽にテリドンを使用できるようになり、テリドン・システムの利用は大きく伸びる可能性が出てきた。



テリドン利用をめぐる最近の動きとしては、例えば次のようなものがあげられる。

●ホームバンキング

モントリオール銀行は、グラスルーツの加入者にホームバンキング・サービスの始めた。当面は預金の口座振替、残高調整、月間明細報告など数種の内容に限られているが、近い将来、請求書の支払いやクレジットカードの支払い、借入れ申し込みなどできるようになる。

加入者は自分の会員番号と暗証語をインプットして、二十四時間いつでも銀行が利用できる。

●パソコン利用

カナダのテリドン会社ではこのところ、パソコンをテリドン端末に利用したソフトウェアが相次いで開発されている。

典型的な例が、モントリオールのフォアミックス社。構内テリドンの双方向ディスプレイ・システムをパソコンで制御させることによって、システム価格を十分の一に下げることが成功した。同システムは、すでにオタワの議事堂に納入済みで、トロントのコンベンション・センターやハリファックスの「シーガイド」計画でも採用を検討している。

フォアミックス社ではそのほか、ページ・クリエーション(画像作成)を手持ちのアップルやIBMのパソコンでできるようにしたソフト(価格は僅か数百ドル)や、一台のアップル・パソコンで同時に八台のテリドン端末を動かすソフトを売り出している。

フォアミックス社のほかにも、マイクロツール社やテイソン・インフォメーション・テクノロジー社、リミコン社、マイクrostター社、アプコー社といったたぐさんのテリドン会社が、グラフィックス、ページ・クリエーション、双方向の業務用パッケージ・ソフトなどを提供している。これらを使えば、百貨店や商店街、図書館や公共機関などは従来よりずっと手軽にテリドン・システムを導入できることになる。

●自動車運転教習

ブリテイッシュ・コロンビア州では、ドライバーたちに交通規則など法律知識を学ばせるのに、テリドンを採用している。

このシステムは、州の大手テリドン会社ドミニオン・ディレクトリーが中心になって開発したもので、ドライバーは州政府運輸省の各地出先機関に置かれたテリドン端末で質問を受けたり答えたりする。

各人に応じて設問の数や難易度が変わるから、従来のペーパー学習より学習効率がよくなるという。このテストは、練習用にも、また本番の免許試験にも使える。

●バスの運行表示

シヨッピング・センターやバス・ターミナルなどに設置した端末機に、自分の行先を入力すると、どのバスに乗ればいいのか、何時に来るかを、ただちに教えてくれるシステムが、オタワのジェネシス・グループによって開発された。

ジェネシス社が作ったシステムは、オンタリオ州交通局のバス運行表をコンピュータによって条件処理し、路線地図やバスナンバー、到着時間を画面に表示する

もの。最近の実験で大きな成功を収めた。

●病院の情報システム

病院経営に最新の医療情報を役立てようと、カナダ病院協会がテリドン・データベース・サービスを開始した。

ジェネシス社の開発した「ジェネシス・テム」というシステムを使って、オタワの中央データベースに経営情報、救急医療、医学教育の三分野の情報を用意し、各病院の端末機からアプローチする。

●ホーム・ユニバーシティ

ケベック大学では、昨年からテリドンをを使って「テレユニバーシティ」という教育サービスを開始している。ケベック市の大学本部にデータベースを置き、州内各地に散らばるキャンパスに合計数十台の端末機を設置し、学生が自分で課目を選択し、学習を進める一種の通信教育

だ。将来は企業内や家庭でも受けられるようにするという。端末機としては、テリドン・コンパチ型ならどんなパソコンでも使える。

●世界の天気予報

世界の気象衛星から送られてくる海洋・気象データをコンピュータで処理し、世界の天気予報、気象地図、各種図表を毎月一万ページ作成するテリドン・システムを開発したのは、メテオロジカル・エンバイランメント・プランニング社とアメリカン・ウエザーウォッチ社。農家、商品取引業者、テレビの天気解説、海運、オフショア開発関係の人々に役立つものと期待されている。

●CATVに接続

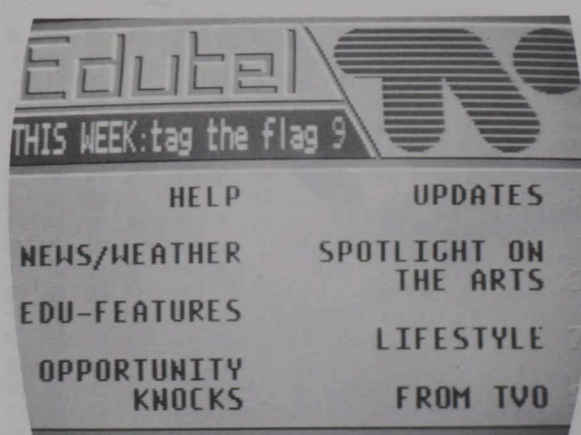
モントリオールビデオウェイ・グループ社は、ケーブル・サービスならテレビでもビデオテックスでもテレテキストでも同じ受像機で受信できるケーブル・コンバータを開発した。これはCATVやペイテレビ五十数チャンネルのコンピュータにもなる。

●「アグリテックス」

マニトバ中心のグラスルーツは有名だが、サスカチュワン州にも州の電話公社サステルが運営する「アグリテックス」サービスが誕生した。グラスルーツやア

グリスター、アグネットなど五つの農業データベースを提供するほか、電子メールもできる。当面の加入者はまだ百五十名ほどだが、来年末には千名に増えると思われている。

サステルは、二年前から一般向けテリドン・サービス「バスファインダー」の実験を続けてきた会社。



●「ゲートウェイ」

米国のタイムズ・ミラー社とカナダのインフォマート社が、カリフォルニア南部で実験していた一般向けのビデオテックス・サービス「ゲートウェイ」が、いよいよ本格的な商用運営に入る。ホームシヨッピング、バンキング、電子メール、ゲーム、ニュース、教育情報など、家庭向けの内容で、一か月の会費は三十ドル。

カナダの航空機産業

年間売上げ=28億ドル、8割は輸出

航空宇宙産業の現況

カナダの航空宇宙産業は、航空機、エンジン、宇宙関連機器、航空機搭載用および地上局用アビオニクス等の研究・開発、

装置、パイロットや整備士の養成機関等を必要とし、関連業界の仕事を生み出す。

広大な国土に比較的小ない人口(約二千五百万人)が分散しているカナダでは、航空機は人々の生活に大きな係わりを持っている。民間航空機の保有数は約二万四千機で、アメリカに次いで世界二位を誇っている。

レジャー用、航空事業、社用等に使用されているこれらの航空機は、それをサポートするシステム、例えば多数の滑走路、航空支援

生産、修理、整備など多方面の能力を持っている。

企業数約百社、売上げの九〇パーセントを五十五社で占め、一九八二年の総売上げは日本の航空宇宙産業とほぼ同じ二十八億ドル(約五千三百億円)。その七七パーセントが輸出である。総売上げの四二パーセントは機体部門、二八パーセントをエンジン部門が占めている。

総売上げの約一五パーセントが生産施設や機械への設備投資と研究開発に向けられている。この投資傾向は、今後も続くものと思われる。

現在、カナダはすでにいくつかの分野で最高の製品や技術を世界市場に提供している。例えば、ビジネス・ジェットのチャレンジャー、消防飛行艇CL-215、STOL(短距離離着陸機)技術、スペース・シャトル用リモート・マニピュレーター、ガスタービン・エンジン、フライト・シミュレーターなどがあげられる。

カナダ政府は一九七四年に航空機メーカーの国有化を決定し、ゼネラル・ダイナミクス社(アメリカ)の子会社であったカナデア社と、ホーカー・シドレー・グループ(イギリス)の一員であったデハビランド・カナダ社を買収した。この国有化政策は、国家にとり極めて重要な航空機産業が、その製品の販路や新製品の開発の是非決定について、他国にある親会社の支配を受けるのは望ましくない、という考え方に基づいている。なお、両社とも一九八二年にカナダ開発投資公社(CDIC)に移管された。

カナダの主な航空機メーカーとエンジン・メーカーを紹介しよう。

カナデア社

カナデア社は、モントリオールにあるカナダ最大の機体メーカーで、その工場は世界で最も整った機体工場のひとつである。

一九四四年に設立されてから、五百八十機の超音速機を含め、軍用機、民間機を合わせ、約四千機の航空機を生産した。現在生産中の機種は、世界で最も進んだ長距離ビジネスジェットのチャレンジャー600型と601型、森林火災消火を目的に設計されたCL-215多用途水陸両用機、それに一連の遠隔操作の無人偵察機である。

この他に、同社は航空機のコンポーネントの製造を他の航空機メーカーから受注している。ボーイング767の新型エアライナー、ロッキードのC-5B軍用輸送機、P-3C対潜哨戒機、CP-140オライオン哨戒機などの主要構造部分などがそれである。また、マクグネル・ダグラスF-15イーグル、F-18Aホーネット、グラマンEF-111Aなど、戦闘機用の機械加工コンポーネントも生産している。

チャレンジャーは、一九八〇年代、九〇年代の多用途ビジネスジェット機市場向けに設計された高速長距離広胴機で、今まで市場に出していた他のビジネスジェット機と比べ、優れた信頼性と整備性を持つ。また、かがまないで伸び伸びと機内を自由に歩きまわることができ、この機種では今まで可能でなかった居住性をも

備えている。

大陸横断のチャレンジャー600型は、推力三千四百キログラムのアプロ・ライカミングALF502Lエンジンを二基、海洋横断型の601型は、推力三千九百二十四キログラムのGECF34エンジンを二基搭載している。

チャレンジャーは、旅客・貨物機、救急機、海洋監視機、偵察・航空測量機、航法支援装置較正機としても優れている。

カナデア社はいくつかの研究プロジェクト・グループを持ち、例えば複合材料を使用する耐久力のある部品の開発や、燃料効率の高い航空機の研究などに取り組んでいる。



チャレンジャーは、従来の翼の形状に比べて、はるかに効率が優れているうえに、軽量の新しい技術でつくられた主翼ハイパス比のターボファン・エンジン、広胴体の採用等、技術の粋を集めてまとめられたシステムである。

近代的なコンピュータ技術が、設計から製造までの工程で広く積極的に利用されており、全体を通じCAD/CAMブ

ログラムが、多数のNC機械や、機械加工パーツのコンピュータ制御検査に直接使われている。

デハビランド・カナダ社

トロント近郊に大型工場と三千人の従業員を持つデハビランド社の歴史は、そのままカナダ航空産業の歴史であり、また世界の短距離旅客機の発展の歴史でもある。

一九二七年、リンドバーグが大西洋横断無着陸飛行に成功し、世界の航空史に大きな足跡を残したその年、カナダにおいて、その後のカナダ航空産業の礎ともなる重要な方針決定がなされた。政府はイギリスのデハビランド社から、DH60 MOTH十機の購入を決定、国内における支援態勢について、デハビランド社と交渉を重ねた。その結果、デハビランド社はアフター・サービス態勢の万全を期すためにカナダに子会社を設立することと決定し、一九二八年三月デハビランド・カナダ社(DHC)が発足、イギリスで設計・製造された航空機の組立ておよびセールス・サービス・センターとしての機能を持つことになった。

一九三七年には本格的な航空機製造会社として航空機の製造が始まり、第二次大戦中は、TIGER MOTHとMOSQUITOのライセンス生産を行った。第二次大戦の終わつた一九四五年、DHCはそれまでのイギリス本社への全面的な依存を脱却し、独自で設計した航空機の製造を図る。DHC-1チップマン

クを開発、翌年にはDHC-2ビーバーを開発した。ビーバーは一九六八年まで二〇年間にわたり製造され、千六百九十二機が引渡されたという記録をつくった。DHC-5パッファロー(一九六四年)、DHC-6ツインオッター(一九六五年)、DHC-7/DASH-7(一九七五年)が開発され、そして一九八三年四月一日にロールアウトしたDHC-8/DASH-8が開発された。

ツインオッターは、すでに八百機を超える引渡し実績を持ち、現在コンピュータ機の分野で最も活躍している信頼性の高い航空機といえる。無舗装の滑走路で



三十六席、二発エンジンのDASH-8は、多くの面でDASH-7の成功を引き継いだものになっている。機体構造の共通性やT字のテールなどはその例である。巡航速度二百七十里ノーズやエンジンナセルが流線型となり、胴体の径も少し細くし、スパークリティカル翼の採用などのほか、新素材のKEVLAR/NOMEXのハニカム使用などの多くの新機軸が打ち出されている。新素材の使用は従来機の二倍以上で、機体重量の一〇パーセントを占めている。

も運行可能ならぬ、四百五十七メートルの短い滑走で離着陸できるので、北米のみならず、アジア、アフリカ、中東地域でも受け入れられた。日本でも、日本近距離航空と南西航空が使用している。

DASH-7は五十席という、短距離旅客機としては、大型のサイズとSTOL性、そして低騒音を同時に実現した四発エンジンの航空機である。乗客数の比較的多い短距離ルートに最適の航空機として、現在までに百機近くが引渡されている。

一九八二年のDHCの売上は四億五千万ドルで、その七、八割は輸出によるもの。

現在、パッファロー、ツインオッター、DASH-7をそれぞれ月産一機製造し、DASH-8の量産体制を整えている(一九八六年には、DASH-8の製造は月産六機に増える予定)。

ベル・ヘリコプター・カナダ社

一九八三年十一月、カナダ政府とケベック州政府は、ベル・ヘリコプター・テキストロン社が、モントリオール近郊のミラベルに軽双発ヘリコプター製造工場を建設する、と発表した。カナダでは初めてのヘリコプター製造である。

ミラベル空港に隣接した工場は、設計、開発、製造、販売、補修、サービス等の施設をもち、これを運営するために新しくカナダ法人のベル・ヘリコプター・カナダ社が設立されることになった。

同社が扱うヘリコプターは、アメリカ

で現在開発が進んでいるベル400ツインレンジャー、ミラベル工場が開発予定の400A型、400型と、これら三機種の発展型。一九八五年には、ツインレンジャーの生産に入る予定である。

新工場の建設は、カナダにおける新しいヘリコプター産業創設への重要なステップといえる。

プラット・アンド・ホイットニー・カナダ社

プラット・アンド・ホイットニー・カナダ(PWC)は、これまで約二万五千五百基のガス・タービン・エンジンを生産し、世界百四十か国で種々の航空機に採用されている。一九八二年の売上は五億四千万ドルを超え、その七五パーセントは輸出であった。

ケベック州モントリオール郊外のロングイールと、オンタリオ州トロント郊外のミシソガの工場、研究所、オフィスに六千五百人の従業員を擁し、ガス・タービン技術の研究開発部門(約千六百人)は、カナダの民間企業の中で第二位の規模を誇っている。

PWCはアメリカのコネチカット州ハートフォードに本社を置く多国籍企業、ユナイテッド・テクノロジーズ・コーポレーション(UTC)グループの一員である。

PWCは、航空機用エンジンの分野だけでなく、発電装置、ガス・石油用バイプラインのポンプ基地、船舶用推進装置など産業用並びに船舶用ガスタービン・エンジンの分野でも活躍している。

(日本航空宇宙工業会「翼のある風景」より)

カナダ人物記①⑥

世界十指に入る
クラシック・ギターリスト

リオナ・ボイド

一九八〇年三月、カナダの女性ギターリスト、リオナ・ボイドが初めて日本公演を行なったとき、朝日新聞は彼女の演奏をこう表現した——美しく変幻
きらわらない演奏、聴衆を酔わせる見事な公演だ、と。

リオナの演奏は、素晴らしい音楽的感性、高い完成度、そして何よりも完璧な技法で知られている。その華麗で危げない演奏は、各国のVIPに愛され、エリザベス女王、トルドー首相(当時)、メキシコ大統領、シュミット西独首相(当時)、カーター米大統領(当時)らが彼女を招いて演奏に耳を傾けている。三年前のオタワ・サミットのレセプションでも演奏した。

しかし、リオナの聴衆はVIPや専門家だけではない。圧倒的多数の民衆が彼女のコンサートに集まっている。リオナ自身、地方の小さな演奏会が好きで、どんな草深い田舎にも出かけていく。カナダやアメリカにとどまらない。これまでに、ヨーロッパ、日本、カリブ海諸国、メキシコ、ブラジル、オーストラリア、ニュージーランドなどでも多くの聴衆を魅了してきた。

見知らぬ地域でのコンサートでは、思いもかけない経験に出会う。熱帯の湿度でギターのネックは歪むし、極地の寒気でニスがひび割れることもあった。野外コンサートでは蚊の大群に悩まされた。サンサルバドルでは演奏の真最中に停電になり、真暗闇の中で弾き続けたし、インディアナポリスの野外コンサートでは、小鳥や猫やこもりの鳴き声と張り合わなければならなかった。



リオナ・ボイド

リオナの公演ツアーにはこうした逸話がたくさんある。そのこと自体、彼女が

女が世界中の人々との出会いを自ら求めて楽しんできた証拠である。リオナは、自分の芸域とファン層を広げるため、旅を好んだのだが、遠い国への旅のほかに、違う芸域の人との共演を意欲的に行なってきた。とくにカナダのフォーク・ロック界のスーパースター、ゴードン・ライトフォットとの共演ツアーは、それまで比較的少人数だった公演スタイルから、一気に五千人相手に演奏する醍醐味を教えてくれた。カントリー・スターのチェット・ア

トキンスとバッハのブランデンブルグ協奏曲やポピュラーソングをレコーディングし、あるいはアンドルー・デービス指揮イギリス室内楽団とレコーディングしたのも、常に新しいものに挑戦し、芸域とファン層の拡大を図りたいという意図からだ。

だが、こうした世界ツアーは、もうあまりないかもしれない。「今後の人生を旅の途中で終わりたい」という気持ちはあります。私は、セゴビアのような、八十五歳の身で世界を回れるギターリストではないんです」とリオナは語る。

彼女は十月に、三度目の日本ツアーをする。十月十三日の福岡を皮切りに、大阪、東京、神奈川、長野、名古屋、札幌、仙台での公演が待っている。

リオナ・ボイド。三十一歳、英国ロンドン生まれ。一九五七年カナダ移住。トロント大学音楽学部卒。トロントのロイヤル・コンサーバトリー・オブ・ミュージックでエリ・カスナーにクラシック・ギターを学ぶ。ジュリアン・ブリーム、イエペス、セゴビア、ラゴヤ、ディアスなど世界のトップ・ギターリストにそれぞれ師事。コンサートのかたわら、カナダ、アメリカのテレビに多数出演。「リオナ・ボイドとイギリス室内楽団」、「ザ・ファースト・ナッシュビル・ギター・カルテット」などLPレコード五枚。一九七八年ジュノー賞(カナダのレコード大賞)、七九年パニア賞を受賞。

編集後記

●ターナー政府が生まれて二か月半で、保守党のマルルーニー政権が出現しました。全国すべての州および準州で過半数を占め、カナダ政治史上空前の議席を獲得するという勝ちっぷりでした。

●新政権は失業など経済問題への対処と、対米関係の改善を最大目標に掲げています。しかし、そのために対日関係がおろそかになるという懸念はなさそうです。もともと保守党は日本と特別に関係の緊密な西部カナダを地盤にしており、日本への関心の強さは決して自由党に劣りません。今回の選挙でも、同地域で圧倒的な勝利を収めています。

●久々の保守党政権。四十五歳のフレッシュナリーダー。全国を制覇した圧倒的な強さ。マルルーニー政権はどのような政策を打ち出してくるのでしょうか。

●ところで新首相の呼び方ですが、アイルランド系のため、Mulrooneyと書いてマルルーニーと発音するのだそうです。本紙ではこれまでマルローニと書いていましたが、訂正します。

(吉田)

本紙中の意見や見解は、必ずしもカナダ政府またはカナダ大使館の考え方を反映するものではありません。また公式分書の翻訳は仮訳です。転載の際は、できるだけ出典を明らかにして下さい。ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

〒107 東京都港区赤坂七丁目三三三

カナダ大使館広報部